



年末 手当

減額は4期連続で終わった！ 3.5ヶ月満額を勝ち取ろう！

JR東海労は、2022年度年末手当について、3.5ヶ月、専任社員はプラス5万円、コロナ慰労金10万円を要求しました。

会社はこの間、コロナ禍による旅客輸送量の減少を理由に、期末手当の大幅削減を4期にわたり強行しました。コロナ禍前の2016～2019年度の4年間の期末手当は、夏3.05ヶ月、冬3.0ヶ月です。それを基準にして、前回までの支給率の2.2ヶ月分を差し引くと、以下の賃金がカットされた計算になるのです。

夏季手当 3.05 - 2.2 = 0.85ヶ月 0.85 × 2期 = 1.7ヶ月

年末手当 3.0 - 2.2 = 0.8ヶ月 0.8 × 2期 = 1.6ヶ月

合計 1.7 + 1.6 = 3.3ヶ月

全社員の皆さん、これだけの賃金が減額されたのです。黙って見過ごすわけにはいきません。ここ最近、物価高騰が相次いでいます。しかも、ほとんど生活必需品です。私たちの生活はますます厳しくなっています。

一方、JR東海ユニオンは「JR東海労は非常識の要求をしている」などの批判を繰り返す反面、一人平均6,000万円もの高額な役員報酬に対しては無言です。この間の大幅減額の回復を考慮すれば、3.5ヶ月要求は少ないくらいです。いくらコロナ禍であろうと、リニア建設を止めさえすれば、期末手当は減額する必要はありません。第1四半期の決算は470億円の黒字です。要求通り出せる条件は整っています。今こそ年末手当の満額獲得に向け、職場から声を上げていこうではありませんか。